

Ladder

平成22年11月 2日 第14号

北海道教育庁学校教育局

参事(生徒指導・学校安全)

中1ギャップ・高1クライシスを解消するために

Q 小・中学校の緊密な連携を図るためには、どのような取組が効果的ですか。

中1ギャップを解消するためには、各中学校区において、中1ギャップの状況等の実態把握に基づき、9年間を継続して子どもを育てていくシステムを構築することが必要です。

そのためには、小・中学校の教職員等により構成される「中1ギャップ解消検討委員会」等を組織して、「中1ギャップ解消プラン」を作成し、小・中学校が協働して計画的に取り組めるようにすることが効果的です。

B中学校区の「中1ギャップ」解消プラン (10月以降を抜粋して掲載)

時期	A小学校	B中学校
10月	第2回 B中学校区中1ギャップ解消検討委員会 【メンバー】 A小学校・B中学校の教頭・教務主任・生徒指導主事、教育委員会担当 【ねらい】 これまでの取組の進捗状況を確認するとともに、課題について協議する。 【内容】 (1) これまでの取組の反省、(2) 6領域学校適応尺度(ASSESS)の結果活用法について(3) 今後の計画について、(4) 情報交流	
11月	児童会・生徒会交流会 【メンバー】 A小学校児童会役員及び担当教員、B中学校生徒会役員及び担当教員 【ねらい】 児童会・生徒会相互の理解を深める。 【内容】 (1) 児童会・生徒会の取組を交流する。(2) ボランティア活動における協力体制について協議する。(3) いじめアンケートの結果を報告し、いじめ根絶に向けた取組を交流する。	
12月	第2回生活アンケート(6領域学校適応尺度:ASSESS)の実施 【ねらい】 児童生徒の学校適応へのきめ細かな支援を行うため、実態を把握する。 【対象】 A小学校第5・6学年、B中学校全学年	
1月	全校研修会(ピア・サポート) 【ねらい】 児童会・生徒会相互の理解を深める。 【対象】 B中学校第1・2学年 【内容】 「ピア・サポート=仲間に対する支援」の基本理念や他者理解、意思疎通の仕方などについて簡単な演習を通して学び合う。	
2月	中学校教職員の出前授業交流 【ねらい】 児童の中学校への不安を取り除き、興味・関心を高める。 【対象・方法】 A小学校第6学年・中学校教諭が小学校へ出向き授業を行う。 【内容】 保健・体育科「武道(剣道)」	
	入学説明会 【ねらい】 児童の中学校への不安を取り除き、中学校生活への準備を行う。 【内容】 (1) A小学校第6学年が中学校の授業を参観する。(2) 体育館で中学校の生活についての説明を聞く。 * 学校行事の説明(生徒会)、中学校生活の基本(教務)、学校生活のきまり(生徒指導部)	
	第3回 B中学校区中1ギャップ解消検討委員会 【メンバー】 A小学校・B中学校の教頭・教務主任・生徒指導主事、教育委員会担当 【ねらい】 これまでの取組の進捗状況を確認するとともに、課題について協議する。 【内容】 (1) これまでの取組の反省、(2) 6領域学校適応尺度(ASSESS)の結果(変容)について(3) 次年度の計画について	
3月	第3回生活アンケート(6領域学校適応尺度:ASSESS)の実施 【ねらい】 児童生徒の学校適応へのきめ細かな支援を行うため、実態を把握する。 【対象】 A小学校第5・6学年、B中学校全学年	
	中学校への引継ぎ 【メンバー】 A小学校の教頭、第6学年担任、特別支援コーディネーター B中学校の教頭、教務主任、生徒指導主事、特別支援コーディネーター 【ねらい】 新入生の受け入れ態勢や学級編制、指導方法について、事前に打ち合わせる。 【内容】 ○小中連携シートを活用し、きめ細かく情報の引き継ぎを行う。 ○不登校生徒への対応やいじめを未然防止の取組を協議する。	

小・中学校の教職員及び教育委員会職員等から構成される「中1ギャップ解消検討委員会」を定期的に開催しています。

生活アンケートを定期的に実施し、学校環境への適応状況を把握しています。

人間関係を築く力を身に付けさせる取組として、「ピア・サポート」を取り入れています。

出前授業や入学説明会を開催し、児童の中学校入学への不安を解消するとともに、中学校生活への意欲を喚起しています。

小・中連携シート(Ladder 3号で紹介)を活用するなどして、きめ細かな引き継ぎを実施しています。

「Ladder」は学校間の接続を図る「はしご」を意味しています。